



3月はもう少しで終わります。ポーポキのおうちのまわりに梅が咲き、もう少しで桜が咲きます。大好きな花を見て、自然のめぐみを感じるのは、平和？

Popoki's Hot News!



もうすぐ！ポーポキのミニ平和映画祭！

3月28日 14:00～17:00！予定しておいてね！神戸YWCA！



ポーポキのピース・ブック3！

ポーポキのピース・ブックシリーズの3冊目、

『ポーポキ、元気って、なに色?』は、お近くの本屋さん、出版社エピック (<https://bookway.jp/epic/>)、神戸 YMCA、ポーポキ・ピース・プロジェクトから入手できます。ご注文、および感想をお待ちしています。



「一言の平和」コーナー

ポーポキのお友だちのチェルシーにゃんから届いた平和。

「私は最近、飲食店でバイトを始めました。正直にいうと、動きはテキパキではないし、経験も浅いので、沢山の失敗をします。しかし、一生懸命に頑張っている姿を見せ、できるところまで精一杯やっていたら、教えてくれる事も増えて、いただくお仕事も増えました。それに、お客様も応援してくださるので、す！そういう、成長する時が、一番幸せです！」

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。ポーポキのメール [ronniandpopoki\(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com) !



いつもご協力、ありがとうございます！

「ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅」

(エピック 2012) はお陰様で好評です。ぜひ広めていただきたいと思います！

*神戸 YMCA でも販売していますよ！ 本については、

<http://popoki.cruisejapan.com/monogatari.html> をご参照ください。



ポーポキと一緒に平和を創り出す集会 **～ポーポキのミニ平和映画祭 その4～** **「東日本大震災を知る・福島第一原発事故を考える」**

2002年度から不定期に開催している「平和を創り出す集会」では、事実をできるだけ正確に知り、市民の視点から、平和を創り出すために私たちに何ができるのか、ともに考え語り合い、行動の糸口を探すひとときを持ってきました。

マイカップを
ご持参
ください！



平和ってなに？平和ってどんな形？
 映像で「平和」を表現することは可能？
 一緒に「平和」を考えてみませんか？
 ポーポキも参加するんだよ！



今回も、映画&トークセッションを企画しました。好きな時間帯に参加して、好きな作品を観て、おやつでも食べながら、作品について話し合ってみよう。

日 時： 2015年 3月 28日（土） 13:30 ～ 16:30
 場 所： 神戸YWCA Rm.402, 403
 神戸市中央区二宮町 1-12-10 tel. 078-231-6201
 参加費： 無 料 （YWCA・YMCA 国際協力募金活動にご協力願います）
 主催：ポーポキ・ピース・プロジェクト、神戸 YMCA、神戸 YWCA

テーマ：東日本大震災・福島第一原発事故について考えましょう！

プログラム

*具体的な内容は当日まで発表しません！お楽しみに！

- 13:30 ごあいさつ
- 13:35 福島の子どもたちはいま
ドキュメンタリーを見て、子どもたちが抱えている問題を考えましょう！
- 14:45 休憩・ディスカッション
- 15:20 岩手県上閉伊郡大槌町の現状を知る！
写真・スライドショーを見て、震災の実態をかんじましょう！
- 15:30 フクシマをアートでとらえる！
福島第一原発事故は、アートを通して表現するとどうなりますか？
- 15:55 ディスカッション・共有・ふりかえり

お問い合わせ・お申し込み
 ポーポキ・ピース・プロジェクト
ronniandpopoki@gmail.com
 又は

神戸YMCA国際・奉仕センター（担当：松田）
 〒655-0001 神戸市中央区加納町2-7-15
 TEL (078) 241-7204
 e-mail houshi@kobeymca.org



ポーポキ in 大槌町

2月27日～3月2日まで、ポーポキたちが岩手県上閉伊郡大槌町にやってきました。ワークショップやポーポキ友情物語展を行うためです。以下は、ポーポキの友だちの報告です。読んでいただければ嬉しいです。

大槌町第1日目

文書 アナにゃん

和訳 もりにゃん

2月27日、私は岩手県にある大槌町という町に到着しました。岩手県は、本州の東北に位置し、太平洋に面した場所です。大槌町は、他の場所と同様に、**2011**年の地震によって引き起こされた巨大な津波によってひどくダメージを受けており、沿岸部の建物や家屋をすべて破壊されてしまいました。また、大槌町の人口(現在は約**13000**人)の約**1**割が不幸にも命を失うことになりました。

大槌町に着いたときに最初に目にしたのは、通常目にする高層ビルや立ち並んだビルではなく、丘や木々に囲まれているということでした。私は、この丘が**2011**年の津波の際に、人々の逃げ場になっていたことをこの後に知りました。

私は、大槌町に他4人のポーポキメンバーと、ポーポキ友情物語の展示と大槌町のさまざまなセクターの人々とのワークショップを実施するために来ました。大槌での活動は、4日間に及びました。大槌町に着いて最初にしたのは、夜行バスが到着したバス停からローソンに向かうことでした。ローソンに、ポーポキの友達で、**2011**年の震災以降、大槌町で地域の再建のために尽力している元持さんが、私たちを迎えに来てくれました。私は元持さんには、以前に2度お会いしたことがあります。

最初に元持さんに会ったのは、彼女が神戸大学大学院の授業に来てくれたときです。そのときのテーマは、「自然災害発生時、どのように私たちは安全を感じることができるか」でした。この議論は、私をととても不安でナーバスにさせました。しかし、もし私が大槌町の人々が経験したような自然災害を経験していたら、私は家族や仲間と一緒にいたいと思います。自然災害のときに家族と一緒にいることができれば、安心できるし、必要なときに何か家族にすることができます。**2**度目に元持さんに会ったのは、**2014**年の灘チャレンジでポーポキのブースを彼女が訪れたときです。灘チャレンジは、年に一度、神戸の灘区のお祭りで、**1995**年の阪神・淡路大震災直後に、住民が立ち直るのに貢献したお祭りです。元持さんは、餅を手土産に、ポーポキの活動を応援してくれました。

元持さんと過ごした大槌町での時間は、とてもすばらしいものでした。元持さんは、彼女の事務所を、ポーポキの最初のワークショップの場所に使わせてくださいました。ワークショップは、読み聞かせをするお母さんたちのグループと行いました。お母さんたちの中には、

12 年間も読み聞かせ活動をしている方もおられました。なぜ、読み聞かせの活動をしているのか尋ねると、あるお母さんは、自分の子どもに読むことに興味をもっともらいたいと思ったからだとおっしゃっていました。自然災害の話題では、自分たちのつくった紙芝居で、自分たちの経験を語ってくれました。最後のプレゼンテーションでは、説明なしで行いました。無言であることは、絵がすべて語っているかのように、とても力強いです。



午後には、私たちは伊藤さんにお会いしました。伊藤さんは、大槌の街を案内してくださり、津波で破壊された建物がまだ残っている場所を見せってくれました。また、私たちが立つ丘(城山)から、いま復興のための工事が行われている場所も見ることができました。丘の上からは、土盛り作業のためのたくさんのダンプが見えました。復興の建設作業には、土地を高くするということが含まれていることがわかりました。

復興作業の様子を見降ろす場所に立っていたので、私は、この復興作業は、もしも津波が再び起こった場合、どの程度耐えうるものなのかと思いました。

2014 年に日本にやってきた留学生として、2011 年の東北の地震と津波は、いまだに鮮明に記憶に残っています。私の国、トンガでは、日本の復興のために、2 度の募金活動に参加しました。日本で学んだトンガの卒業生たちは、ダンス祭を主催し、チケットやシャツを売り、募金集めをしました。また、トンガの赤十字は、トンガの首都ヌクアロファの主要道路の道路わきで、通り過ぎる車に向けて募金活動を行いました。JICA ボランティア、日本大使館職員、赤十字ボランティア、トンガの卒業生、友達が、東北復興のための募金活動に、道路傍の募金箱に集まりました。ある人は、その日にケーキを提供し、その売り上げを募金にしました。私たちは、ラジオ局やテレビのアナウンサーにも協力してもらい、一般の人々に呼びかけてもらいました。

トンガは、厳しい経済状況にもかかわらず、東北のために多額のお金が集まったことを記憶しています。





文章 アンナにゃん

和訳 もりにゃん

マストでの展示の初日の前の夜に、私たちは、どこに展示を設置するか、どのように見せるか、どの布をどこに展示するかなどを決めた。森にゃんと私は、事前に準備していた展示の案内や、本を元に描いたいろいろな動物などの絵を飾った。さらに、会場が目立ち、来場する人にわかりやすくするために、バルーンやフラッグガールランドも掛けた。展示はマストの2階、エスカレータの前にあった。

初日は宿泊先を8時15分頃にタクシーでマストに行って、展示の最後の飾りを準備した。カラフルな飾りと布は特に子どもの目を引いた。親御さんたちが買い物をしている間に、子どもたちは私たちのところにきて、一緒に絵を描いて

いた。ポーポキの本を、日本語以外の言語がどのように聞こえるかを子どもたちに知ってもらおうと、私たちの母語で本を読むことにした。ほとんどの子どもたちは、おそらく初めて聞くであろう英語やトンガ語、ドイツ語を聞くことに興味を寄せていた。そして、ジェスチャーとミミック（特にアナちゃんの）も使ったので、子どもたちは理解できたようだ。このことは、どこの国の出身であろうとも、私たちは何らかの形で同じ言葉を話す、ということを表している。もちろん、日本語で話を聞きたいというときは、もりにゃんが生き生きと日本語で読んだ。また、前日のワークショップに参加した



お母さんたちも来てくれた。ワークショップ参加者の方が、ポーポキに興味を持ちサーボットしたい、ということが嬉しかった。展示を見に来た人の何人かは、じっくりと布を見たりして、津波の体験を話す人もおられた。それでも、ポーポキのプロジェクトとはどういうもので、私たちが何者であるかと、質問する人が多かった。その人たちに森にゃん、ろにゃんとさとにゃんが、ポーポキ友情物語活動について説明した。17時に展示を終えて、宿泊先に帰った。

次の日も、同じ時刻に宿泊先を出て会場をオープンした。この日は、前日より来場者は少なかったが、じっくりと、興味をもってくれた来場者の話を聞くことやプロジェクトの説明をすることができた。展示の終わり頃、93歳の三浦さんに、マストまでお越しいただき、彼のライフストーリーをうかがった。彼が2011年の津波について歌を書いたことで、彼のことはよく知られるようになった。彼の歌詞は、多くの人の心に響いたが、まだ、聞きたくはないという人が多いと話した。今93歳で、彼は第二次世界大戦と三度の津波、1933年、1988年と2011年を経験し生き残った。そして、戦争はいつも津波より過酷だとおっしゃった。津波は、町を破壊するかもしれないが、戦争は、その破壊が数年間もの間続くうえ、たとえ負けても勝っても、戦争は必ず痛みを伴うものであると説明された。



左から：三浦さん、もちにゃん、ろにゃん、
あんなにゃん

最後に、若者へ津波が来たときのアドバイスに、彼はまず自分を守ること。そして、そのあとは自分のことではなく他の人のことを一番に考えることが大切だとおっしゃった。そして、平和を創造し、希望を持つようにとおっしゃった。



今回は、3つのワークショップを実施することができた。

最初のワークは、読み聞かせを続けてこられたお母さんのグループ、次は、65 歳以上の元気おばあちゃんたち、最後は、元気子どもたち。それぞれのワークショップで、新しい取り組みをすることができた。

最初の読み聞かせのお母さんたちは、ポーポキのねこたちに興味津々の様子。自己紹介ゲームをして、みんながにゃん友になったところで、ポーポキの紹介、ドイツ語と日本語を交えた絵本の読み聞かせをすると、いつもと違う雰囲気を楽しんでくれていました。読み聞かせのプロのお母さんたちにも、絵本を読んでももらいました。初めて読んだポーポキの本は、どんな感じだったでしょう？それぞれが、好きなように表現できるポーポキのワークショップ。みんなが、だんだん表現したい気持ちになってきました。そして、布を使って身体表現をしてみたい！

というもりにゃんの試みで、ピンクのきれいな色の布を使って、安全・安心を表現することを試みました。大活躍したのは、はなちゃん。はなちゃんは、さっと布の下にもぐり込みました。みんなもはなちゃんにつられて、布の下に入ってみると、うっすらピンク色に包まれたあったかい空間がありました。目線もお互いの距離も一気に近くなって、なんだか急に楽しい気分になったよう。子どものころ、狭いところに入ったり、自分だけのお気に入りの空間を作るのはとても楽しかったですよ。新しい、布を使った表現の可能性を発見することができました。安全・安心について、五感を刺激し、最後は、安全・安心をテーマに紙芝居を作りました。5 枚の色画用紙を使って、グループでストーリーを考えます。紙芝居は、無言です。



絵だけでストーリーを表現するのです。それぞれのグループのお話では、津波から「逃げる」ということが強調されていたようです。暗いことばかりの毎日のなかで、大きくきれいな虹をみたときの感動をストーリーの中に入れたりしました。きれいな虹の前には、大雨があつたり嵐があつたり。けっして、きれいで楽しいことばかりではないことも、表現していました。できた紙芝居は、次の日からのマストでの展示でも掲示させてもらいました。

次のワークショップは、元気おばあちゃんたち。にゃんたちの紹介とポーポキの紹介をしたあとに、さとにゃんのポガで身体と心をほぐします。今日はいつもより、じっくりと身体をほぐします。みなさん、身体がやわらかい！お元気な証拠ですね。その後、さとにゃんのアイデアによる新しい試み。フィジーとマーシャル諸島で描かれた布を広げて、みんなで描かれていることの意味について話しあいました。布に描かれた、大きな木の絵をみて、一本松だとみんながっていました。「やわらかくてやさしい感じがするね。」「きれいな色だね。」と、絵の意味ははっきりとわからなくても、絵から感じるものをそれぞれが感じていました。みんなで、しばらく布をじっくりみて話をしたあと、どこで、誰によって、どんなことを思って描かれた布であるか、ろにゃんが説明してくれました。ろにゃんは、これはフィジーで、大槌が津波に襲われたときの映像を見て、津波の現実的な恐ろしさを知り、安全と安心について描かれた布だ、ということでした。南太平洋の島々は、海面上昇という海の恐怖を日々感じています。大槌の人々の経験は、別の海のそばで暮らす人々にも恐怖と脅威を伝え、安全・安心を再考する大きな役割を果たしている、と辛い話の中でも、ろにゃんは伝えてくれました。目頭を押さえている人もいたように思います。辛さを共に感じながらも、大槌の人たちに、世界で大きな力になっていることを必死で伝えていました。おばあちゃんたちも、何を伝えようとしているのか、つらい話の中でも聞いてくださいました。最後に、自分たちの絵を、あらたに布に描きくわえました。家を失った人が多く、家に住みたいと、家を描いておられる方が印象的でした。庭には、たくさんお



花を植えていたの、とコスモスやスイセン、カサブランカと教えてくれました。そして、家の玄関では、お父さんと一緒にいるの、と二人の人の絵。絵にはストーリーがある。そして、私のストーリーがまたここに生まれる。友情物語は、こうして、一人一人がストーリーを編んでいけるのがいい。同じ一枚の布でも、それぞれに違うストーリーを語ることができる。今では、たくさんの布が繋がっている。新たに書き足すだけではなく、描かれたものをじっくりと見て、味わうということの大切さも発見することができました。

最後は、子どもたちとのワークショップ。最初に、にゃん紹介。そして、地図を使って、トンガとドイツを探しました。ドイツはすぐに見つかったがトンガは少し難しかったようです。次に、アナにゃんによる棒を使ったゲーム。みんなの気持ちがそろわないとできないゲームです。何度か挑戦しましたが、やっぱり難しい！これは宿題だね。次に、ポーポキの紹介をしました。わかりやすい説明と、プロジェクターがなくてもできる説明の仕方、ということ

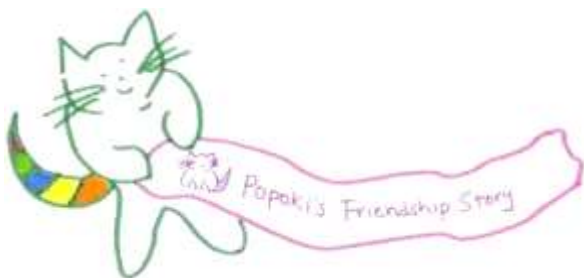
でスケッチブックを使いました。ポーポキはねこだよ、というところから説明をします。なかなか興味津々の様子。ポーポキの自慢の大きな七色のしっぽにも、すぐに気づいて反応してくれていました。どうやら、ポーポキを気に入ったようです。「ポーポキは平和のことを考えるのも好きなんだよ。平和って何色だと思う？」という問いに、「透明！」という声がありました。そうか、透明かぁ。「形はあるかな？」と聞くと、「ない！」でも、感触をたずねると、「やわらかい」と言っていました。なんだかおもしろいね。続いて、読み聞かせをしました。アナにゃんは、トンガ語の練習をしてくれていました。日本語、トンガ語、ドイツ語、英語。いろいろな言葉で読み聞かせをしました。初めて聞く言葉は、みんなにどんな風に聞こえたかな？英語で一緒に読むことになり、みんなで挑戦。ちょっと難しいみたいだけど、知っているアルファベットの「Y」を、文章の中から見つけたり。絵本は、文章を読むだけではないんだな！最後に、安全と安心をテーマに、紙芝居作り。どんなときに安心できるかな？と聞いたら、男の子が「夢の中」と答えてくれたのをきっかけに、夢の話を考えることになりました。夢の中では、ポーポキはたっくさんのかつおぶしに囲まれて、嬉しそう。毒りんごを描き始めたけど、みんなからの視線が気になったのか、中にはカラフルなかつお節がはいっていると説明。別の男の子は、よく怖い夢を見ると言っていました。津波の



影響かもしれません。いずれにしても、どれも思いつかないような発想です。終始落ち着かない様子の男の子だったけど、実はちゃんとみんなの様子も、もりにゃんの言葉も聞いていて、ちゃんと考えて答えてくれているのです。やさしい子なんだな、と思いました。みなにゃんが、それぞれにできることを考え、挑戦し、新しいことに取り組むことのできたワークショップでした。布の可能性も、あらたに広がったワークショップでもありました。

とくに、私にとっては「言葉」を考える機会になりました。マストの展示にも後日足を運んでくださったワークショップ参加者が「言葉がない」というのがよかった、とおっしゃいました。被災直後に避難所で再会した方に、「会えてよかった」と言葉にしたところ、「よくないからここにいる」という返答。このとき、言葉は難しいと感じたそうです。それ以降、会う人には言葉ではなく会釈することにしたの、と。また、アナにゃん、アンナにゃんも、言葉の壁を感じながらも自分たちの表現を見出していました。表現しようとする彼らの姿勢から、私は、言葉以外の可能性や重要性をあらためて体験することができました。





* ポーポキのインタビュー *

さとにゃん

大槌町インタビュー(2015.2.27~3.2)



朝7時20分到着予定が少し早まって、大槌バイパスローソン前に到着。寒い！！と思っていたら、今年は意外に暖かい。と思ったのも束の間、東北独特の北風に大歓迎されてしまいました。市街地を抜ける道は、土盛りの為に迂回路を通らねばならず、まるで巨大採石場か、工事現場。津波が来たことを知らなければ、大規模な新規開発事業が進められているところと勘違いしそうです。

そんな大槌町でのプログラムの間に、色々な方から聞いたお話を少し紹介します。

Aさん: 安心・安全っていうと、津波の前は食べ物のことが気になっていた。この食べ物は安全かとか、何を食ったら健康になるかなんて考えていたのに、津波の後には「安心・安全」=津波対策になってしまった。

津波の時にどうしたという話しではなく、津波の前の生活が垣間見えるようなこんなお話しも、ポーポキだから聞くことができたのかも知れない。

Bさん: (展示活動についての質問の後) これは良い活動ですね。4年経つと、みんなが少しずつ忘れてきていて、備えが甘くなっている気がします。津波を経験したことのない人にもこのような形で世界中に発信するというのは、とても大切だと思います。

Kさん: 最近あった避難警報の時に、沢山の食べ物を車に積んだのに、主人とお母さんはそんなに心配しなくても大丈夫だと言った。でも、私は怖くてどうしても大丈夫だとは思えなかった。

このお二人の話からは、被災したところでも、既に風化が始まっていると感じている人たちが居ることが分かります。

Nさん: 大槌町には仕事がないので若い人が働けない。息子も盛岡で仕事をしている。大槌町にある仕事は、建設現場の仕事だけだ。

Cさん: 親父もトラックの仕事をしていて、僕もトラッ



クの仕事をしている。少しずつだけ大槌町の復興にも役立っているし、とてもやりがいのある仕事だと思うし、親父の仕事が格好いいと思って自分も始めた。

生き方も考え方も色々。Cさんの子供さんはCさんの事が大好きで、トラックに乗っているお父さんを自慢しているようです。



津波を3回経験された方の話から

Iさん:娘にも、出かけるときにはしっかりした靴を履いて、必要最小限のものは鞆に入れておくように言っているし、自分もそうしている。カイロや保険証のコピー、水や食べ物も常に入っている。そして、人への感謝の気持ちを忘れず、ボランティアに来て下さっている皆さんが帰られるまで何事もないようにといつも祈っている。

Mさん:津波が来ても怖くない。要領が分かっているので直ぐに動ける。しかし初めてではこうはいかないので、困って迷っているうちにやられる。しかし、要領が分

かってきたのは、90歳になってからだ。

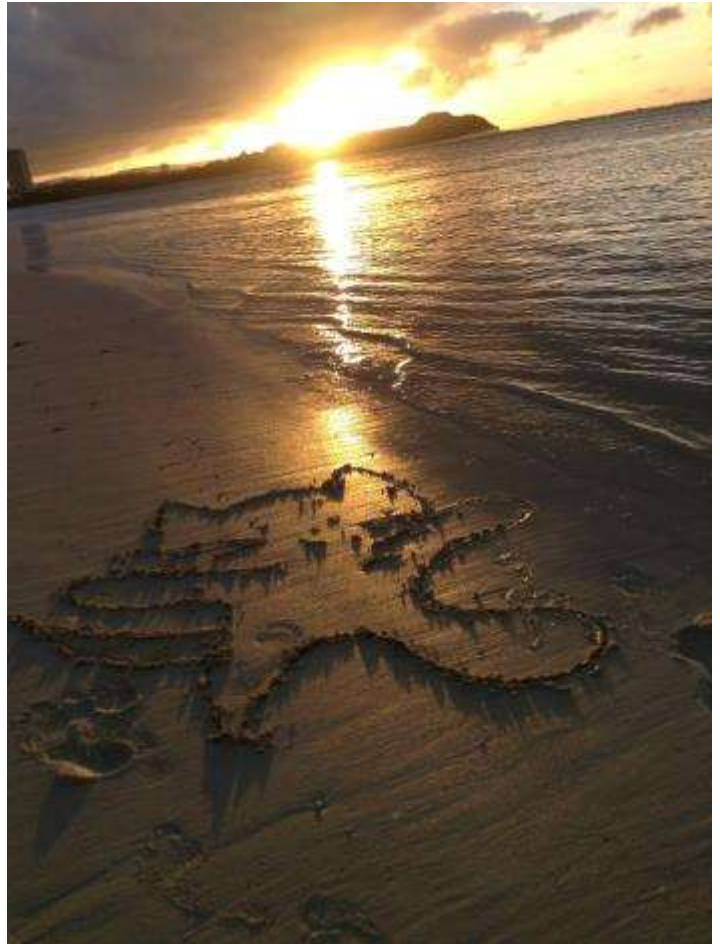
色々な方と話しをすると、本当に気づくことが多い。いくつになっても、学ぶことを忘れずにいたいと思います。



美しいサンセットの島、グアム。ポーポキとの旅は、グアムを拠点にしました。短い滞在の時に見えたこと(良いことも良くないことも)をいくつか、いつもより長くいたおかげで見えてきたような気がします。まだまだですが…。

贅沢して、毎朝ビーチでランニング。そして、ほとんど毎晩ビーチでサンセット。それを繰り返していると、いろいろな話を聞かせてくれる知り合いができました。たとえば、ビーチでテントに住んでいるおじさん。海軍の任務中に怪我をして、今は治療のためにハワイへ行くのを待っている、という。ビーチには必ず一般の人のためのアクセス路やパブリックビーチもあり、場合によってはだれかの土地になっていることもあるらしい。このおじさんは、親戚の土地だと言っていました。本当はわからないけど、いつ行っても大きな笑顔で迎えてくれて、冷たい飲み物(ビール)をいつでもOKと言ってくれます。泳ぐときは「荷物はここにおいてね」と言ってくれるし、動物が好きとわかると、犬を連れてくる人を私のところに連れてきて紹介する。昔、軍隊が繁盛していた時代(60年代、70年代)を思い出しながら今は沖縄から海兵隊がグアムにくるとかで、軍人はまた多くなる。だから昔みたいになる、という。「それって、良いこと？」と聞いたら、「良い、悪いはなし。軍隊が相手だからね。向こうの言うとおりにしないといけないね。仕事が増えるといいんだけど…。」

別の人は、テントではなく、ちょっとした木材の家に住んでいます。ちょうど私の背の高さぐらいのところに坂にくっつけた形で作った家。はしごを上るとまず、椅子を2脚ぐらいをおけるデッキがあります。おばさんがそこに座って、上からビーチを見下ろすことができます。家族も一緒に住んでいるらしい。ある日、声をかけてみました。お隣のミクロネシア連邦(チュック島)からの移民ですか、と聞きました。チュック島からたくさんの人がグアムに来ており、グアムの人に嫌われていることが多いらしい。数が多いだけでなく、生活習慣が違ったり、いろいろな公共サービスの対象となるので、グアムの人からしてみれば、自らの資源を奪われているように考える人が少なくない。結局、そのおばさんはチュックの人ではありませんでしたが、何回か会っているうちに近くに住んでいるチュック人を紹介してくれました。おばさんは、チュックの人は彼女たちのようにアメリカの生活スタイルになれているわけではないので嫌われていると教えてくれました。彼女自身は嫌っていないと



言っていたけれど、差別の問題は根が深いと感じました。わからないことが多い私ですが、おばさんと楽しくおしゃべりができてよかったです。

ところで、グアムは、自決の過程を経てアメリカの領土になったわけではありません。米西戦争の結果、アメリカがスペインから委譲しただけです。だからグアムは未だにアメリカの植民地です。そして、アメリカの軍事戦略において重要な役割を果たしています。沖縄のように米軍基地に反対する外国が多いため、反対ができないグアムに基地を置くと都合が良いとか、中国や北朝鮮へのアクセスがスムーズにできるとか、理由はいろいろあります。アパートに住んでみてびっくりしたことは、海軍チャンネルとか、ミリタリーチャンネルなど、米軍はテレビチャンネルを運営しており、ローカルニュースやチャモル文化以外に防災情報やチャリティなどの取り組みもあります。ホテルでは見ることができないチャンネルですが、これらを毎日観ていると、米軍基地がグアムにあるのが当たり前、米軍は戦争のためにいるだけではなく、いろいろな「良いこと」をするし、カッコイイという印象を受ける人が多いということがなんとなくわかってきます。私にとってはとても違和感がありましたが、軍事化の過程を間近にみる良いチャンスでした。



観光、勉強、仕事を問わず、旅行するときに、旅先で出会った人々をステレオタイプや色々なところで収集した情報から生まれた思い込みによって分類し、ライフスタイルについて決めつけることが少なくない。私たちがそうしているように、彼らは自らの人生を営もうとしていることを見落とすことが珍しくない。グアムには米軍基地や観光地、ホテルが確かに多い。けれど、そればかりではありません。毎日、仕事や学校に通い、食事を作ったり食べたりして、家族や仲間とおしゃべりなどして過ごしたり、アートをつくったりしている人はもちろんいます。次回は、グアムで新旧の友人と過ごした「特別な普通」について書こうかな。

ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 82

今月のテーマは、「足と腹筋をつかいましょう」！



1. まず、いつものように、美しく座りましょう。
 2. 次は、ひざをまげて、仰向けになりましょう。おなかに力を入れて、腰をびったり床につけてね。では、ひざをゆっくり上下に動かしてみましょう。できる人は、足を床につけずにトライ！
 3. 今度は、まがったひざをあげたまま、足を開けたり閉じたりしてみましょう。腰を浮かさないように注意してね！
 4. では、足を伸ばしてみてもいいかな？ チャレンジが欲しい人は、開けたり閉じたりしてみてください。
 5. できてもできなくてもがんばりましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！
- お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？ 毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

一緒にいかが？

次回のポー会：4月24日(金) 19:00～ 神戸YMCA(新神戸OPA2階)

- 3月28日 ポーポキのミニ平和映画祭
13:30～16:30 神戸YWCA 4階
会場:13:00。詳しくは、本号3ページを参照。
- 4月9日～12日 伊藤陽子写真展！(次ページを参照)
11日の午後にポーポキの友だちのための説明も！
- 5月？(土) 畿央大学でワークショップ
6. 7 灘チャレンジ！
7. 11 子どもの里プログラム
8. 6 広島ディー(ダイイン&スカイブ)
- 10月?11月? 平和と健康ワークショップ 兵庫医療大学



4年経ちました・・・



津波で壊滅的な被害を受けた岩手県の大槌町は、震災の記憶を風化させまいと活動続けるアマチュア写真家、伊藤陽子さんがいます。

津波で消えた町が「あった」ではなく「ある」。人々の記憶からは、どんどん薄れていってしまう震災の記憶。しかし被災地では、今も復興に向けた闘いが続いています。

過去の出来事として受け入れるにはあまりにもかけ離れた現実を、覗いてみませんか。

岩手県大槌町 伊藤 陽子 氏

東日本大震災 写真展



伊藤陽子

(アマチュアカメラマン 大槌町在住)

震災で自宅も職場も失いながら、車に残ったカメラと携帯を使って、震災翌日から自分の記録として写真を撮り続けた。

2015年4月9日(木)～12日(日)

神戸市青少年会館

〒651-0096 神戸市中央区雲井通5丁目1-2

☎078-232-4455

開催時間 10:00～17:00(最終日は15時まで)

入場無料

期間中は会場に伊藤さんがいらっしゃる予定です。
ぜひお越しください。

主催 伊藤陽子 東日本大震災写真展 応援ボランティア

協力 神戸市青少年会館(NPO 法人こうべユースネット)、ボーボキピースプロジェクト

Popoki in the News

ポーポキ通信のバックナンバー: <http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ! <http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』(貝原加奈 2014.4.25 28面)
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』(2013.8.23 朝刊 地域経済 8面)
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』(2013.8.7 朝刊 22面)
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひと抄」『読売新聞』(2013.2.16 夕刊 4面)
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から」、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』2012.10.29 (「今、平和を語る」、夕刊、1面)
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に 9 条がある」NO: 66 2012 年 5 月 12 日[子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60 メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』 2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」斎藤雅志 『神戸新聞』 2012.1.19 (伝える 1・17 3・11、22面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peace? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing”(Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 『「ポーポキ、平和って、なに色？」の背後にあるもの」(連載) とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑤(パレスチナについて)『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる！」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色? ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色?』」「私のいち押し」奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて~人間と、ねこと、そして自分と~」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カテイング・エッジ」第 35 号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なに色? ポーポキのピース・ブック 2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色?」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色?」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか?」RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組をクリック。番組 CH の 6CH をクリック。
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会『世界人権宣言』ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500 円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは?」Kumamoto YMCA News 10 Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」2008.10.8. 10 面





私にとってのポーポキ

田村かずみ

A 君の進級について担任から承認をお願いします。

私が彼を進級させるべきだと判断する根拠は2つあります。

一つ目は、進級は本人と家族の希望だからです。進級を果たすための課題を家族が徹夜で見守りました。もし彼が進級できなくても感謝を持って学校を去るつもりだそうです。二つ目は、彼の症状が改善しつつあるからです。元々の彼の良さが戻っています。

これまでの経過です。

彼は中学3年生でバスケ部のキャプテンを引退した後無気力になり、起床困難になりました。受験勉強は全くしていません。本校に入学できましたが、再び教室で起きていられなくなりました。しかし、修学旅行を契機に睡眠の管理ができるようになり始めました。遅刻は一学期の33時間、三学期は7時間に減少です。バスケ部に所属し、友達に恵まれ、楽しい生活を送っています。しかし、時既に遅し。進級に値する出席日数が足りません。

学校は学力や技能を身につけるだけではなく、希望をもって生きていくことを学ぶ場です。努力した挙げ句、17歳で希望を捨ててしまうことがこの生徒の人生にどう影響するか、私にはわかりません。先生方、判断をお願いします。

この後の彼は5分の3にあたる教員から進級の承認を得、学校長からも認可された



さらにご協力ください！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック 3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011 年に起こった東日本大震災をきっかけに活動をしており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を 2012 年 1 月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動が続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動が続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.com へお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)



<http://popoki.cruisejapan.com>

郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一円 1500 円 何円でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!!